

ニセラーゴカブリダニ雌成虫に対する各種殺虫剤の影響

○岸本英成・外山晶敏
農研機構果樹茶業研究部門

ニセラーゴカブリダニは古くはカンキツのミカンハダニに対する天敵として知られ、また、ハダニ類以外にもフシダニ類やアザミウマ類、花粉類など幅広い食性を持つジェネラリストカブリダニ類の一つとして、微小害虫に対する天敵類としての活用が期待されている。本種は有機リン剤、カーバメート剤や合成ピレスロイド剤といった非選択性の殺虫剤にきわめて弱いことから従来の経済栽培園ではほとんど発生が見られなかったが、近年、農薬散布回数の削減や選択性殺虫剤の活用により徐々に観察例が増えている。このため、本種に影響の少ない農薬の使用により、天敵としての活用場面の拡大が期待されている。しかし、本種の薬剤感受性検定法はきわめて煩雑であったことから、薬剤感受性に関するデータは限られ、特に、近年多く開発されている選択性殺虫剤に対する感受性は調べられていない。

演者らは、市販飼育容器のメッシュ付き蓋とフェルトを組み合わせ、ジェネラリストカブリダニ類が好む微生息環境を提供し、雌成虫がほとんど逃亡しない薬剤感受性検定装置を考案し、果樹でよく使用されている殺虫剤20剤、殺ダニ剤7剤で感受性検定を行った。本種は、ジアミド系殺虫剤3剤に対しては、ほとんど死亡せず、産卵数も水を散布した場合とおおむね同程度であったことから、同剤は本種雌成虫に対してほとんど影響がないことが示された。一方、ネオニコチノイド系殺虫剤に対しては、死亡率は高いものの、産卵数が大きく減少した。ジアミド剤以外に本種に影響の少ない殺虫剤としては、シフルベンズロン水和剤、BT水和剤、フロニカミド水和剤、ピリフルキナゾン水和剤、また殺ダニ剤としては、アセキノシル水和剤、シフルメトフェン水和剤、スピロメシフェン水和剤、シエノピラフェン水和剤、ピフルブミド水和剤が挙げられた。

なお、本研究は農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「土着天敵と天敵製剤＜w天敵＞を用いた果樹の持続的ハダニ防除体系の確立」で実施されたものである。

Effects of Various Pesticides on Adult Females of *Amblyseius eharai* (Acari: Phytoseiidae).

Hidehiko Kishimoto・Masatoshi Toyama
Institute of Fruit Tree and Tea Science, NARO